

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の 特徴	H24年5月に開設。1階に小規模、サテライト型特養、地域交流スペース、キッズルームが併設されている。地域の方も気軽に利用できるスペースがあり、フリーカフェを行なっている。地域の中の施設としての特性を活かせるよう、利用者の想い、希望、ご家族や多職種との連携を図りながら、生活が継続できるよう取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能型居宅介護川崎	管理者	目黒 聡		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	0	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●事前訪問に行く際は、ケアマネージャーの他にケアワーカーまたは、看護師が訪問し多職種の観点から情報を得る。 ●通常業務の中で利用者、家族の意見を聞き、サービスの質の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前訪問に行く際には、ケアマネージャーの他、管理者・介護職員も事前訪問に同行し、より多くの情報を得られるよう努めた。看護師については、医療的に必要性の高い方がおられなかった為、同行はしなかった。 ●通常業務の中で、御家族より連絡帳の記載方法についてわかりやすく見やすい物にして欲しいとのご意見を頂き、より見やすいよう記載方法を変更し連絡帳用紙を新たに作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所自己評価の次回までの具体的な改善計画の中で「地域資源を把握する」「情報収集する」等改善計の内容が漠然としている為、勉強会をして理解を深める等具体的な計画があると評価しやすい。 ●初期支援でケアマネと介護職員の同行訪問はなかなか難しい。 ●新規の利用者に対していろいろな視点で情報収集していく事は良い事だと思う。 ●しっかり取り組んでいると思う。何段階も評価している為、簡略化できるといいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前訪問時はできる限り、ケアマネージャーの他に管理者・介護職員の同行訪問を行ない、複数の視点で見ることにより多くの情報を得られるよう努める。また、医療依存度の高い方がいれば看護も同行訪問していく。 ●今後も引き続き、ご利用者・ご家族からの聞き取りやアンケートを行ないながら、意見や要望を反映しサービスの質の向上に繋げていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●サポートセンターが分かりづらく、入りにくい為、行事や「まちなね」の活動の際に、センターの説明会を行ない必要時はパンフレットをお渡しする。 ●センターに来所された方に職員が、積極的に声を掛ける事で人の出入りの把握に努める。 ●班長会議出席に替えて、広範囲の方に周知できる回覧板を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●センターでの行事やまちなねの活動の際には、その都度センターの概要説明を行ない、周知に努めた。 ●センターに来所された方に対して、意識して積極的に声を掛けるよう努めた。 ●今年度より、回覧板の配布範囲を広げることでより多くの方に周知して頂けるよう努めたが、センターでの行事等に新たに来られた方は多くはなく、PR方法に課題が残った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●キッズスペースを利用した際の職員の対応が良かった。川東地区には子どもが遊べる場所が少なく、特に冬季期間はこういった場所があるのは良いと思う。 ●玄関の周りが華やかだと入りやすいのではないかな。 ●夏場に玄関のスリッパの臭いが気になったことはあった。 ●川崎も施設案内看板を出しているが、クニック側にある為、気づかない場合もあると思う。場所の検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●センターに来所された方へは積極的に声をかけることで、入りやすい雰囲気配慮し、職員間で情報共有をしていく事で防犯にも注意を払う。 ●地域交流スペースやキッズスペースをより多くの方に活用していただけるよう、活用方法を回覧板や近隣の保育園や小中学校・近隣施設へのポスター掲示にて地域住民へ情報発信していく。 ●施設案内看板の大きさや、設置位置の検討を行ない、地域の方に見やすく入りやすい工夫を行なう。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域交流スペースを使用した「まちなね」や講習会を、定期的(隔月)に実施し継続していく。 ●「まちなね」・行事・イベントの終わりに今後予定している(一か月程度)行事等の案内を、口頭またはパンフレットでお伝えし次回も来て頂けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「まちなね」や講習会については定期的に実施出来ていた。今後も継続して実施していく。 ●「まちなね」・行事・イベントの終わりには、今後の活動予定の案内を行ないリピーターとなって頂けるよう努めた。地域の方が来られなかったこともあり、周知方法や日時・対象者選定・内容等について検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちなねで地域の方が来られなかったのは、地域に知られていないからかもしれない。情報がどこまで伝わっているのか、対象を決めてもいいのかもしれない。 ●困り事について回覧板でPRしてもいいと思う。具体的な相談内容や、相談窓口、委員を載せてみてはどうか。 ●長期的に来訪者が増えればいいのかもわからないが、防災などの視点からもっと地域の方に積極的に知ってもらった方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も継続して「まちなね」や行事を行ない、周知方法に加え、地域の方に来ていただきやすい日時の設定や内容についての検討を行なう。 ●「まちなね」・各種行事後の今後の活動予定の案内に加えて、相談窓口の案内も行い、回覧板でも情報発信していくことで、事業所が相談しやすい場所となれるよう働きかけていく。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コミセン行事や学校の運動会、文化祭に利用者をお連れする。 ●安全を確保した上で、季節に合わせて外出、散歩、日光浴の機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●川崎コミセン祭りや、中学校の運動会に希望される利用者をお連れすることができた。中学校の文化祭等の行事にはお連れすることは出来なかった。 ●春秋、気候の良い時期のドライブ、個別の買い物、天気の良い日はセンターウッドデッキでの日光浴や近所を散歩するなど外出の機会を取ることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティセンターではイベント自体は少ないが、サークル規模での活動は多くある。見学、参加も可能。 ●地域の食事会に利用者が参加するケースもある。 ●隣近所との関わりも地域に出向くことの一つである。センターから出向き、完結してしまわない事も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティセンターでの行事や活動、地域の学校等の行事に、ご利用者の希望に応じてお連れし、参加していただく。 ●地域の活動や行事に参加するだけでなく、ご利用者の今までの隣近所との関係性も繋げていけるよう関わっていく。 ●安全を確保した上で、季節に合わせて外出、散歩、日光浴の機会を継続して作っていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●多職種との連携を図る為、近隣の総合病院に声を掛け、運営推進委員になって頂けるように働きかける。 ●包括センターや地域の方々に、情報を頂きながら、地域での取り組みや困っている方についての話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度より、近隣の総合病院の職員・歯科医の方より新たに運営推進委員となって頂く事ができ、専門的な視点で様々な意見を頂く事ができた。 ●運営推進会議では地域で心配な方の話は出たが、詳しい事例検討までは行かなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議に参加することで川崎地区の事を知ることができ良かった。地域のサービスの事を病院内で紹介する事もでき、理解を深めることができた。 ●具体的な事例検討は難しいと思う。地域の方までは検討する必要はないのではないかと。一般的な事例まででいいのではないかと。 ●運営推進会議のメンバーで地域での取り組みを一緒にすることは難しいと思う。会議の中でアドバイス等の意見を挙げ、運営に反映していくことでも取り組んでいることになるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も総合病院・歯科医の方から運営推進委員を継続していただく。専門的な視点で様々な意見を頂きながら、情報交換を行なうことで多職種間での連携を図っていく。 ●地域での課題や困り事等、運営推進会議の場で情報交換を行なうことで、地域の情報を把握していく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議に合わせて防災訓練を実施する。 ●川崎合同防災訓練に継続して参加し、地域の防災に関わっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●センターにて防災訓練は実施したが、運営推進会議に合わせての防災訓練は実施できなかった。 ●川崎合同防災訓練には参加出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時には利用者の対応があり、その他の事をする余裕はないと考えられるが、一時的な避難所として場所を提供するだけでも安心感を与えることができると思う。 ●センターの防災訓練に参加した際に、消防署の方から、建物自身が防災対策をした造りとなっている為、外に避難するよりも建物の中にいた方が安全な場合もあるといった話があった。 ●災害時の避難場所が駐車場では救急車両等と重なってしまう。コミュニティセンターでは近くの児童公園に設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所の防災訓練を運営推進会議と合わせて実施できるよう時間の調整や同じ日に難しい場合については、別日に実施し、運営推進委員の方、地域の方への参加の案内を行ない、防災についての情報提供や防災意識を共有できるよう努める。 ●町内会長やコミュニティセンターとの情報の共有や、回覧板等からの情報収集を行ない、年間を通しての活動を把握し、地域の防災訓練にも参加させていただく。